専門図書館協議会全国研究集会第4分科会
2019.6.21

観光における“研究・情報のプラットフォーム”を目指して
～多様な連携から生まれるもの～

公益財団法人日本交通公社「旅の図書館」副館長　大隅　一志

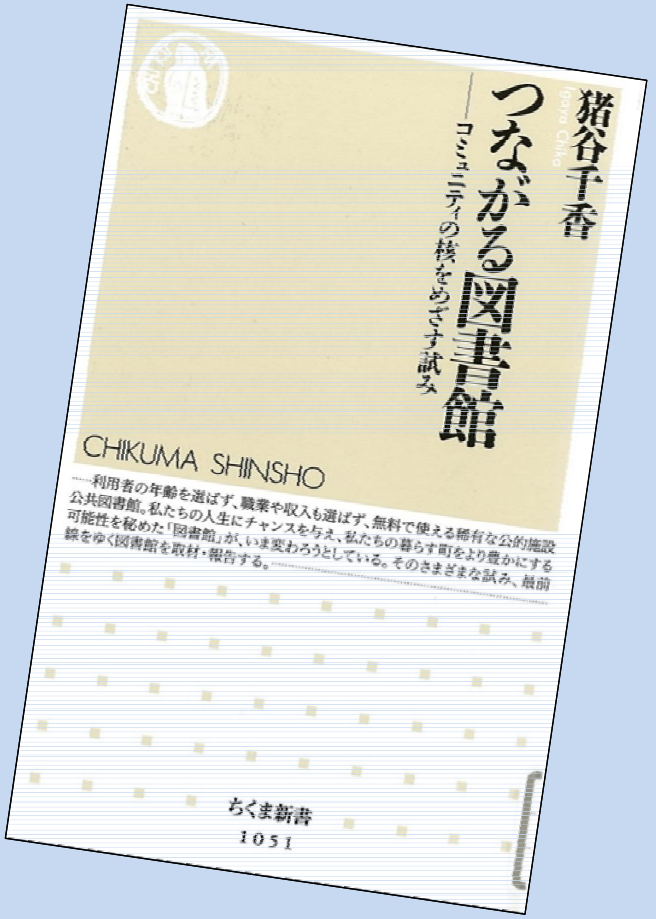
旅の図書館
LIBRARY OF TOURISM CULTURE

“つながる”

なぜ、つながろうとするのか？

様々に“つながる”→“連携する”取り組みから、“つながる”ことの意味とその可能性を考える

＊移転・リニューアル前後からの
　約3年間の取り組みから
＊紹介する取り組み≒成功事例



CONTENTS

1. 運営組織と「旅の図書館」
2. 旅の図書館における“つながる”・“連携する”意味
3. 旅の図書館が実践する多様な連携

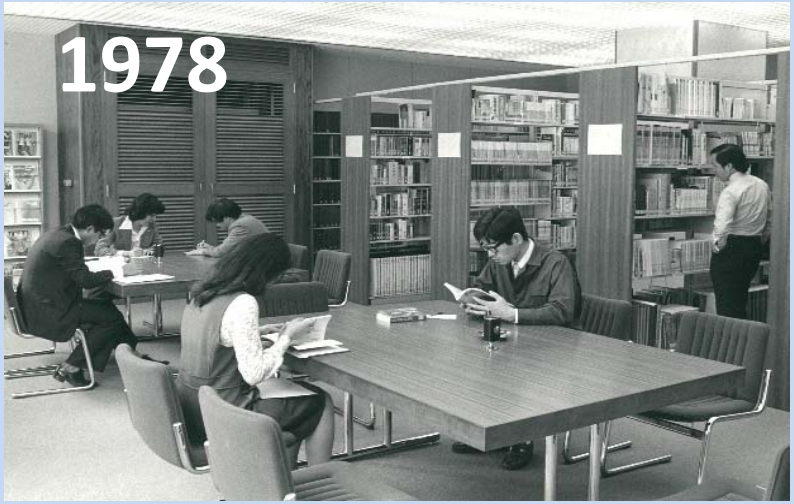
1. 運営組織と「旅の図書館」

公益財団法人日本交通公社

1912	創設　当時の名称は「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」、 外国人観光客誘致が目的の任意団体として設立
1945	財団法人日本交通公社と改称
1963	営業部門を分離して、（株）日本交通公社（現：（株）JTB）設立 財団法人日本交通公社は、旅行・観光分野のシンクタンクに特化
2012	公益財団法人に認定
2016	文部科学省より科学研究費補助金取扱規程に規定する 学術研究機関の指定を受ける

旅の図書館

- 1978年 「観光文化資料館」として開設：テーマのある旅を応援する図書館
- 1999年 旅の図書館に改称
- 2016年 移転・リニューアルオープン
- 2017年 UNWTO（国連世界観光機関）寄託図書館
- 2018年 専門図書館協議会より団体功績表彰



コンセプト：観光の研究や実務に役立つ図書館

◎ (公財)日本交通公社の研究本部が所有していた図書や報告書の一体化
◎ 独自の図書分類の構築
◎ 専門性・希少性の高い蔵書の公開

研究員が自ら運営

蔵書（たびとしょコレクション）

収蔵方針

◎観光の研究・実務に資する図書・資料を重点的に収蔵

◎旅行・観光地に関する最新の情報を収集。
古い資料は、調査研究を行うためのアーカイブ資料としての観点から厳選して保存

独自分類

◎観光分野に特化した蔵書の特徴や専門性に対応するため、3つの分類を導入

観光研究資料（T分類）	
観光研究の専門図書・資料	
T0	観光原論・概論
T1	観光者・観光活動（Ⅰ）
T2	観光者・観光活動（Ⅱ）
T3	観光地・観光資源（Ⅰ）
T4	観光地・観光資源（Ⅱ）
T5	観光産業
T6	観光計画・開発
T7	観光政策
T8	観光経営・経済
T9	観光と社会・文化・環境

※分類名については広義の意味での「観光」を前提とする

財団コレクション資料（F分類）	
特徴的な収蔵資料	
F0	財団（JTBF）関係資料
F1	JTB関係資料
F2	統計・白書
F3	ガイドブック
F4	旅行商品パンフレット
F5	時刻表・機内誌
F6	古書・貴重資料
F7	映像・デジタル資料
F8	（未定）
F9	保存資料

基礎文献（NDC分類）	
観光研究の参考に資する基礎文献	
0	総記
1	哲学
2	歴史
3	社会科学
4	自然科学
5	技術・工学
6	産業
7	芸術・美術
8	言語
9	文学

蔵書数 約60,000冊

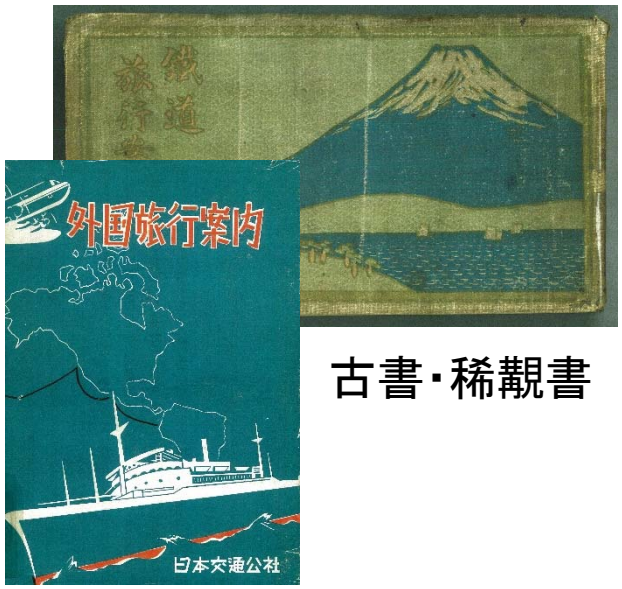
―研究の種をまく・実務のヒントを見つける―

観光統計

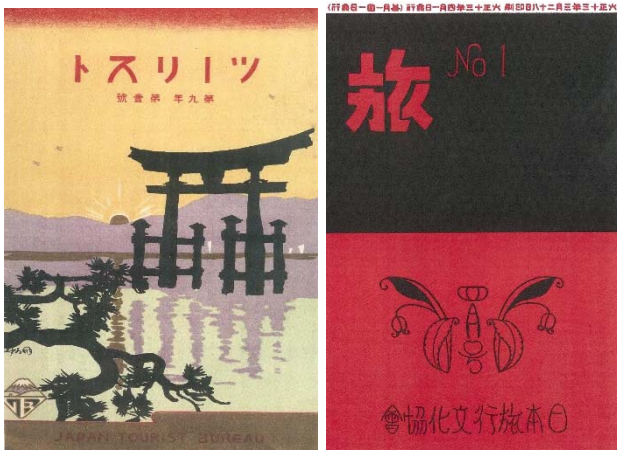
観光研究・地域研究資料

UNWTO刊行物

観光関連産業社史



古書・稀覯書



「ツーリスト」・「旅」
（デジタルコレクション）

2. 旅の図書館における“つながる”・“連携する”意味

①「旅・観光」の特性からくる必然性

＊観光は、人の移動と交流の歴史そのもの。
＊交流から新しい文明･文化が生まれる。
＊多分野との深い関わり合い。

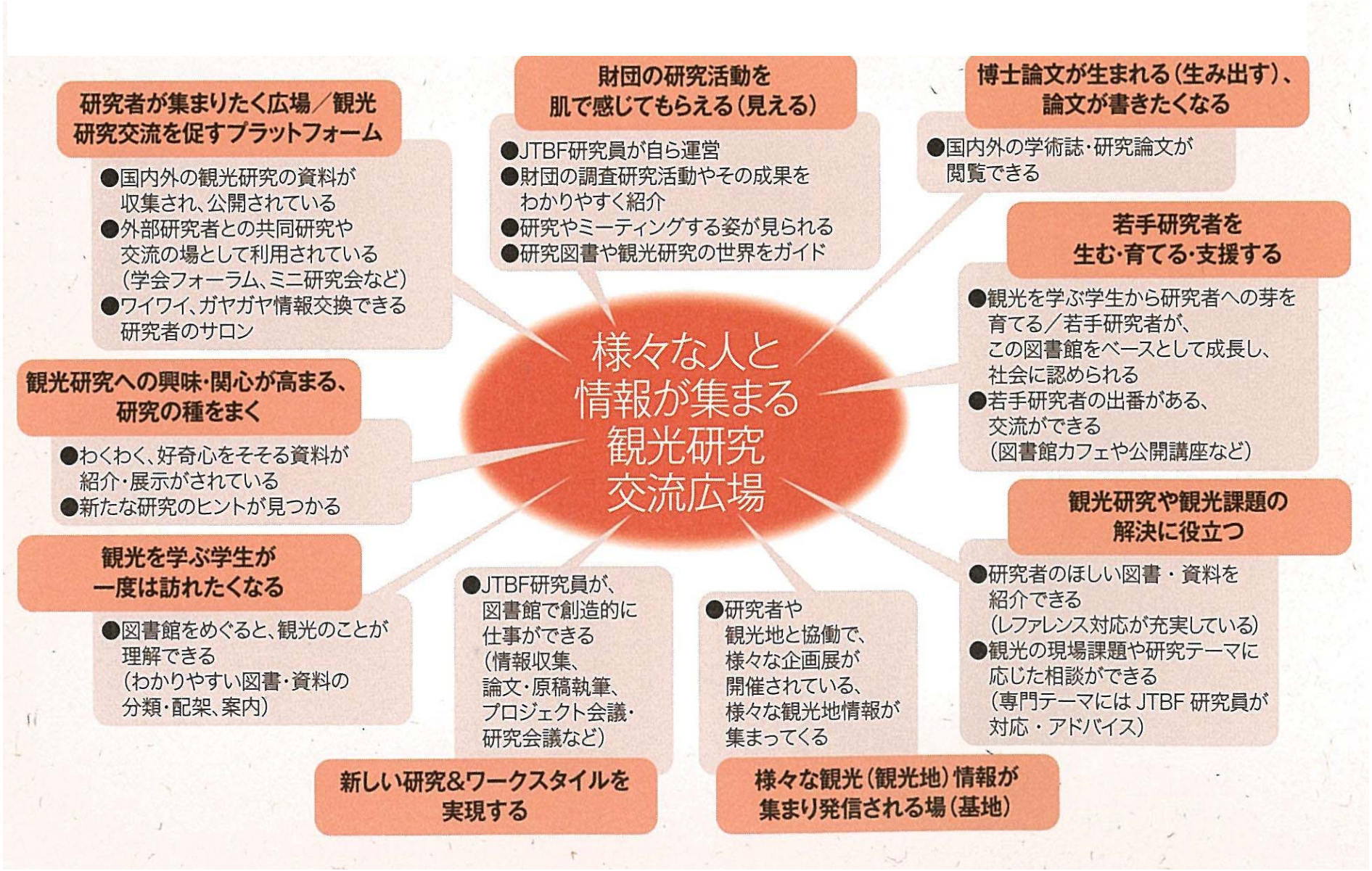
組織における「旅の図書館」の役割

公益財団法人日本交通公社（日本交通公社ビル）の目指すもの

観光分野における
研究・情報のプラットフォーム

図書館＝研究者や実務者、情報を有機的に“つなぐ”組織の中核的役割

目指す図書館像(2014年5月 リニューアル構想策定時)



2016.06.28
現在

研究部門
（観光政策研究部、観光地域研究部、観光経済研究部）

総務部　企画創発課

観光文化情報センター
場・ネットワーク・情報・機会の提供

編集室
「旅行年報」編集・発行
「観光文化」編集・発行
POD出版

旅の図書館
情報収集
図書の収集・保存
図書の展示・公開
利用者サービス

企画室
広報・情報発信
相談窓口運営
ネットワーク構築
シンポジウム企画
たびとしょcafe企画
会員制度

～研究者や実務者、情報を有機的につなぐ～

研究・情報プラットフォーム

大学・学生
研究機関

国
地域

民間

観光関連
団体

情報発信
研究成果の積極的効果的な公開と発信

ブランディング
社会的信頼感、高い学術性、実践力ある組織
としての認知獲得

観光文化の振興（地域、国の観光振興、観光研究発展への貢献）

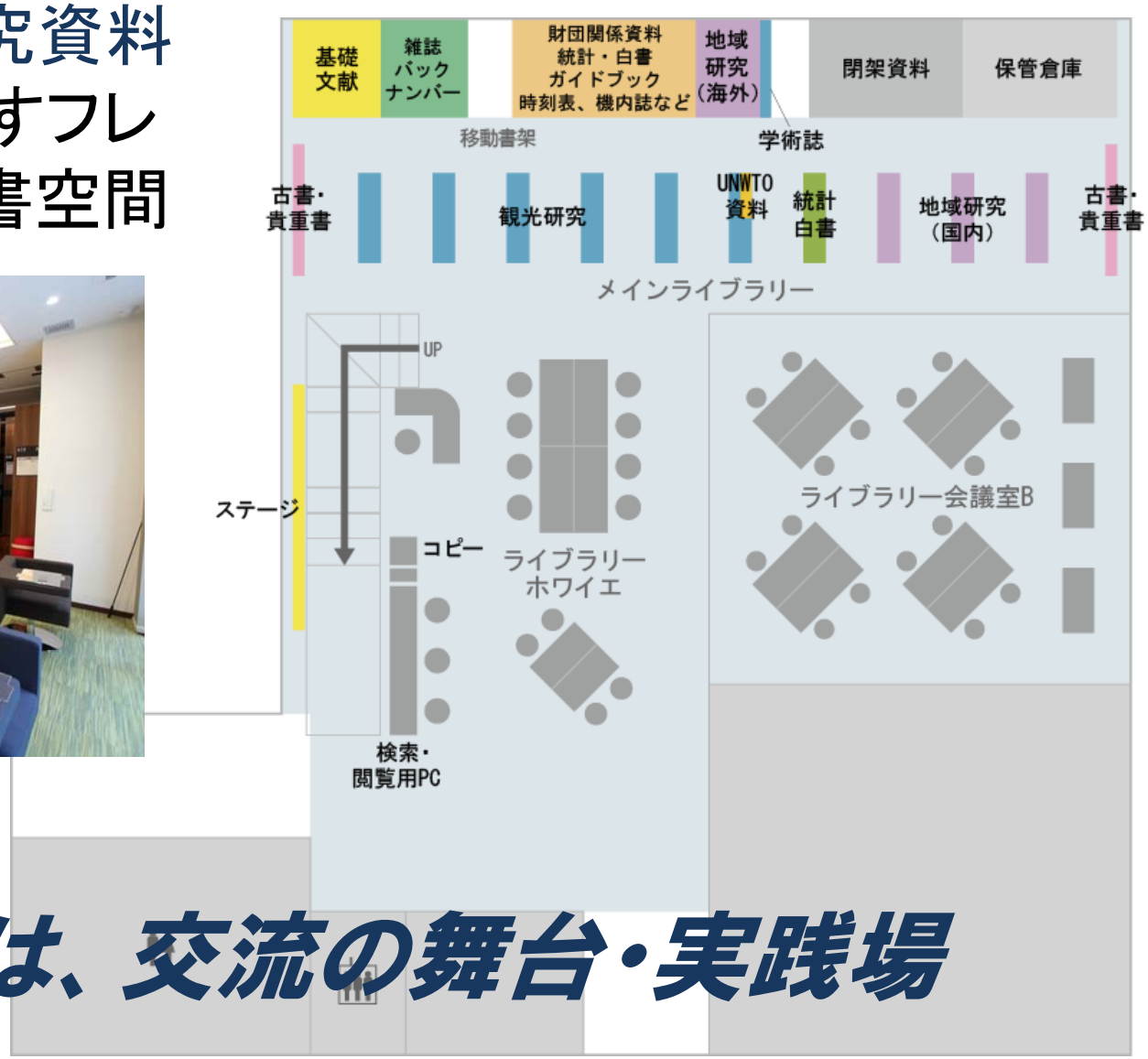
つながるための出会いをつくる図書空間

1F:ライブラリープラザ

- 組織の顔として様々なゲストを迎えるフロント機能
- 新しい情報に出合えるフロア

B1F：メインライブラリー

- 約5万冊の研究資料
- 研究交流を促すフレキシブルな図書空間



図書館は、交流の舞台・実践場

3. 旅の図書館が実践する多様な連携

1. 外部・他機関とつながる・連携する

1-1.図書館･博物館等とつながる･連携する
1-2.海外の観光関連機関とのネットワークづくり
1-3.その他機関との連携

2. 研究者・実務者とつながる・連携する

2-1.たびとしょCafe
2-2.蔵書の魅力発信

3. 地域とつながる・連携する

3-1.観光地への図書の寄贈
3-2.地元（港区）との連携

4. 組織内でつながる・連携する

4-1.研究員との連携＆利用促進
4-2.多様な研究交流の場としての図書館

１．外部・他機関とつながる・連携する

1-1.図書館・博物館等とつながる・連携する

①積極的な見学・取材活動の実施

＊「他館を知る」　⇒自館を知る

＊当館とのネットワークづくり・・・連携の可能性の模索、協力関係の構築(連携への第一歩)

②様々な図書館・博物館との連携

専門図書館として・・・

●「図書館総合展」への参加　ポスターセッションへの参加（2017年度～）

図書館を知ってもらう
＋
他館・図書館業界とつながる
機会をつくる

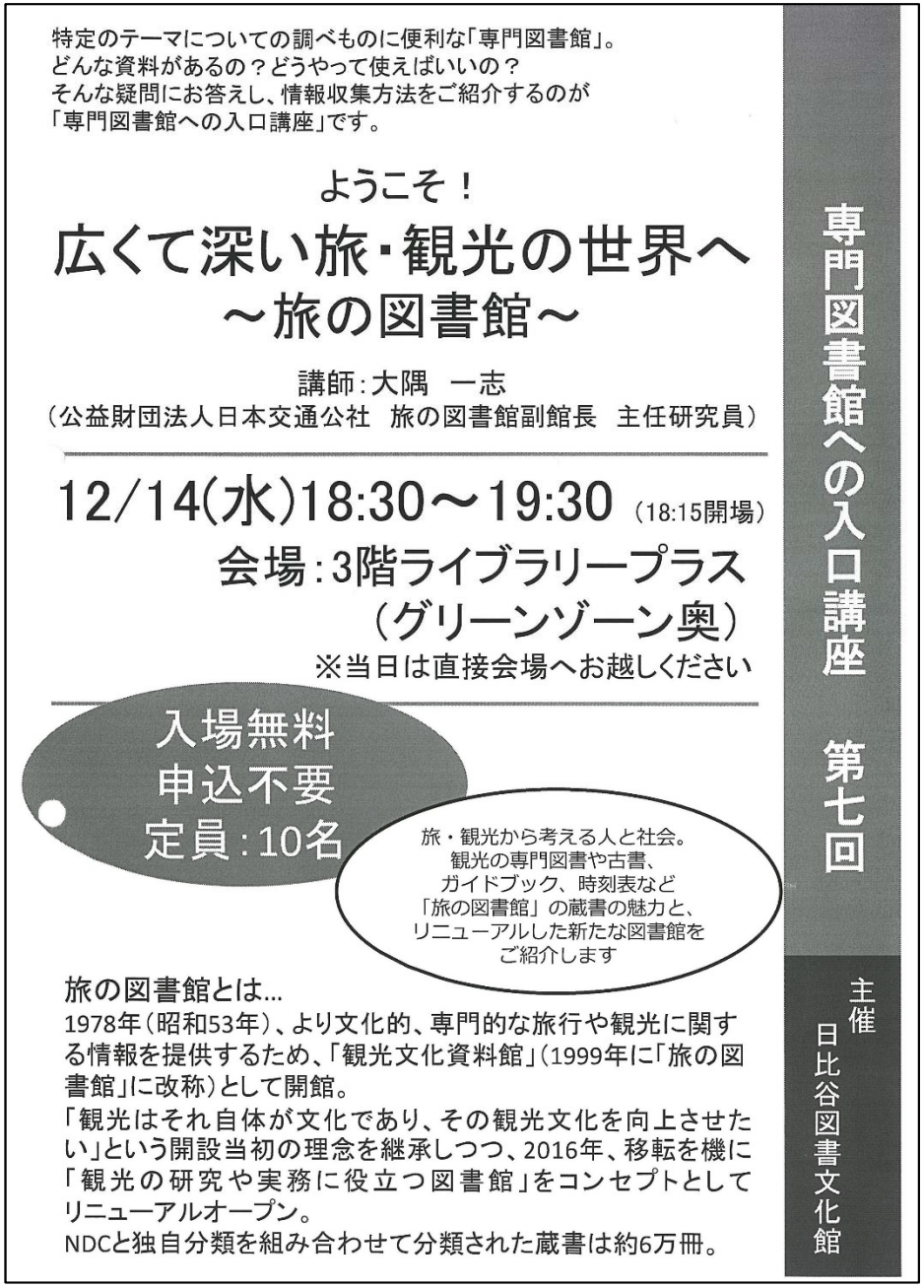
公共図書館と・・・

- 専門図書館への入口として重要な存在

●出前講座

【例】日比谷図書文化館

＊継続的な協力関係
- ・パンフレットの設置
- ・ニュースレターの送付
- ・機関誌「観光文化」の受け入れ



●ビジネス支援図書館推進協議会
（情報ナビゲーター交流会）

ビジネス支援サービスに取り
組む公共図書館と専門図書館
がつながる場

第8回交流会 2019年5月25日
会場:旅の図書館

ミニプレゼン大会

【ビジネス支援図書館推進協議会HP】
http://www.business-library.jp/

【JTBFフォト・レポート】
https://www.jtb.or.jp/column-photo/photo-report-business-navi/

博物館と・・・

●企画展への展示協力

【例】江戸東京博物館、東京国立近代美術館、京都鉄道博物館　等

東京国立近代美術館
「ようこそ日本へ 1920 -30年代のツーリズムとデザイン」展（2016年1-2月）

外の人の眼を通した蔵書の価値の再発見！

たびとしょCafé
2016年3月

「観光文化」

古書特集
2018年10月

●「観光でつながる図書館＆博物館」ネットワークづくり

・観光関連資料を有する図書館・博物館や観光地の図書館等とのネットワーク構築（取組中）

〇『観光文化』特集（古書テーマ）での紹介
〇「観光でつながる図書館＆博物館」コーナーを設置（館内）

観光関連の古書・貴重資料を所蔵する
図書館・博物館

三康文化研究所附属三康図書館

国際日本文化研究センター図書館

神奈川県立川崎図書館

観光に関連した図書を所蔵する専門図書館・博物館紹介ページ（「観光文化」239号）

観光でつながる図書館＆博物館コーナー

＜連携の具体化へ＞
＊情報交換会
＊HPリンク
＊相互レファレンス協力
＊共同企画展
＊（横断的な目録）
＊（相互貸借） など

1-2.海外の観光関連機関とのネットワークづくり

●海外の観光関連アーカイブ組織の訪問取材

Historical Archive on Tourism
（ドイツ）

来館した研究者を訪ねて

Thomas Cook Archives
（イギリス）

近代ツーリズムの原点へ

この先は・・・？

1-3.その他外部機関との連携

●地域活性化センター「ふるさとパンフレット大賞」受賞作品の館内展示

さらなる連携
＋
観光地の実務者等の利用促進への期待

2．研究者・実務者とつながる・連携する

2-1.たびとしょCafe

・研究者･実務者の自由な交流の場の創出
（研究会とは異なる性格）

開館40周年記念特別版第11回Cafe
ゲストスピーカー：猪谷千香氏
（ジャーナリスト･文筆家）

【狙い】
＊様々な分野の研究や実務のヒントを提供してくれる人材の掘り起こし
＊当館とゲストスピーカー、参加者のネットワークづくり
＊図書館を知ってもらう、ファンを増やす
＊研究員と外部とのつながりをつくる

BELHAVEN
BELHAVEN
BELHAVEN
BELHAVEN
BELHAVEN

旅の図書館では、観光に関わる皆様の交流を深めていただくことをねらいとして、「たびとしょ Cafe」を開催しています。

	日時	テーマ	ゲストスピーカー
第1回	2014年11月21日（金） 18:00～20:00	アートが地域にもたらしたものとは？ ～越後妻有大地の芸術祭を通した地域づくりの現場から	関口正洋氏（NPO法人越後妻有里山協働機構事務局長）
第2回	2015年3月6日（金） 17:30～19:30	“アニメ聖地巡礼”から考える観光と地域の可能性	岡本健氏（奈良県立大学）
第3回	2015年7月3日（金） 17:30～19:30	「寺社をとりまく旅の今」 ～寺社コン、御朱印めぐりに集う若者たち	堀内克彦氏（宿坊研究家・寺社旅研究家）
第4回	2015年8月20日（木） 17:30～19:30	地域を元気にする「農産物直売所」のしかけ ～生産者と消費者をひきつける「産直市場よってって」の事例から～	野田　忠氏（(株)プラス　会長）
第5回	2015年9月29日（火） 18:00～19:30	日本の“田舎（INAKA）”は宝物 ～当たり前の再発見と価値づくり～	青山佳世氏（フリーアナウンサー）
第6回	2016年3月15日（火） 17:30～19:30	いま伝えたい「日本」とは ～1920-30年代の日本の観光ポスターから考える～	木田拓也氏（東京国立印代美術館）

旅の図書館では、観光に関わる皆様の交流を深めていただくことをねらいとして、「たびとしょ Cafe」を開催しています。

公益財団法人日本交通公社
旅の図書館
LIBRARY OF TOURISM CULTURE

	日時	テーマ	ゲストスピーカー
第7回	2017年1月16日（月） 17:30～19:30	ICT で変わる観光の未来 ～観光地はデジタルシフトをどう捉えるか～	陳内　裕樹氏 （グーグル株式会社）
第8回	2017年3月2日（木） 17:30～19:30	近代における旅行案内書のあゆみ	荒山　正彦氏（関西学院大学文学部教授）
第9回	2017年6月28日（水） 17:30～19:30	観光地づくりに必要なデザインの視点	市角壮玄氏（アートディレクター・デザイナー）
第10回	2017年8月21日（月） 17:30～19:30	「観光資源評価」から考える日本の魅力の原点 ～観光資源の見方、見せ方～	溝尾　良隆 氏（立教大学名誉教授）
第11回	2017年10月18日 18:00～19:30	人と地域、情報をつなげる図書館 ～観光と図書館の新たな連携スタイルを考える～	猪谷 千香 氏 （文筆家・ジャーナリスト）
第12回	2018年2月8日 18:00～20:00	ツーリズム・リテラシーという考え方 ～産官学の連携と新たな観光文化の創出へ～	山口　誠 氏 （獨協大学外国語学部教授）
第13回	2018年7月10日 18:00～20:30	世界を魅了する飛騨高山のインバウンド戦略 ～独自の取り組み「戦略派遣」の展開～	江尻　英夫 氏 （高山市東京事務所所長代理）
第14回	2018年8月28日 18:00～20:30	観光都市ロンドンはオリンピック・パラリンピックをどう捉えたか －建築空間・公共空間・景観を観光レガシーへ－	山嵜　一也 氏 （山嵜一也建築設計事務所代表、女子美術大学非常勤講師）
第15回	2018年10月16日 17:30～19:30	古書から学ぶ未来へのヒント －日本の観光の課題とこれから－	西村　幸夫 氏 （神戸芸術工科大学　教授）

1Fライブラリープラザでの第16回Cafe

ゲストスピーカー：以倉敬之氏（まいまい京都主宰）

2-2.蔵書の魅力発信

●外部専門家の協力によるオススメ本の紹介

○当財団専門委員「わたしの一冊」
○研究者協力:「一度は読んでほしい研究書・実務書100選」
○旅行作家協力:「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」

●古書の活用

＊研究者による所蔵古書の評価
＊古書を活かした研究の誘導

古書特集
2018年10月

●大学ゼミでの旅の図書館の活用

＊ゼミ見学の積極的な受け入れ（図書館ガイダンス）
・・・観光を学ぶ学生の興味を広げる

「100年前の観光」を観光する

古書を活用した大学教育の実例

館内でのゼミ風景

「観光文化」での大学ゼミ活動の紹介

3．地域とつながる・連携する

3-1.観光地

●由布院温泉、阿寒湖温泉への図書の寄贈

由布市ツーリスト・インフォメーションセンター

阿寒湖温泉「まりむ館」

3-2.地元（港区）との連携

●港区「MINATOシティプロモーションクルー認定事業」（2017年度から参加）

＊港区専用の観光パンフレットラックを設置
＊認定団体や区内企業と連携した活動へ

４．組織内でつながる・連携する

4-1.研究員との連携・利用促進

専門性を高める
研究員と図書館との距離を縮める

●図書館利用案内の配布、職員ガイダンス（1回/年）
●研究員を巻き込んだ選書体制（選書委員）、希望図書の優先的な購入、新着図書リストの案内
●研究員の図書館ニーズの定期的な把握
●「たびとしょCafe」における研究員との連携
●問い合わせ・相談・レファレンスへの対応における研究員との連携

4-2.多様な研究交流の場としての図書館

●フレキシブルなライブラリーホールの活用

通常時の閲覧スペース

関連図書の展示協力や
図書館案内

図書館から提案も・・・

ライブラリーホール全体を使った
シンポジウム

ホールの一部を使った
たびとしょCafe

“つながる”・“連携する“取り組みから見えてきたこと

約3年間の取り組みを通して

◎自ら動かなければ、道は開けない

－可能性を引き出すために自らアプローチする（相手からのアプローチもチャンスの一つ）

◎“つながる”ことが、図書館の新たな可能性を引き出してくれる

－相手を知ると、自館の強味・弱みが見える、連携の方向が見つかる
－“面白い“、“一緒にやってみよう”を見つける
－思いがけない可能性への“気づき”
－つながった相手の意識が変わる、応援団が増える

予測できない
化学反応への期待

◎明確な目標があれば、意味ある行動ができる

－ つながる・連携することの意味が見えているか
（漠然とつながっても意味がない）

－連携がゴールではない！
（連携することの先にあるものは何？）

旅の図書館の場合

- *日本の観光文化の振興・発展に寄与したい*
- *観光を通して魅力ある地域をつくりたい（応援したい）*

図書館は組織目標を実現するための手段
＝図書館は研究者・実務者と出会う場
＝図書館から何ができるか？の追求

ご静聴ありがとうございました。

旅の図書館

LIBRARY OF TOURISM CULTURE